

絹を収穫するとき、繭は集められ、羽化により繭が傷つかないよう蛹は繭の中で殺される。繭を乾燥させたり（これも蛹を中に留まらせる）、繭を煮沸したり、様々な方法でこれは行われる。繭を煮沸して糊状のタンパク質であるセリシンを溶かすのも、絹の巻き取り工程の第一ステップになる。次に、繭をこすって、もつれたフィラメントをほぐす。きびそという廃シルクが取り除かれ、絹のフィラメントの端を手または機械で引き出す。1本の絹のフィラメントはそれ自体を糸として使用するにはあまりにも脆いので、6本から9本の繭糸を一緒に撚り合わす。その後、糸は巻き取りボビンに巻き取られる。1つの繭が完全にほどかれると、機械が自動的に別の繭を糸に撚る。ボビンが一杯になるまでこれを繰り返すと、約300個分の繭を使用する。次に、生の絹を石鹼と他の化学物質を入れた浴槽に浸し、残りのセリシンを洗い流したら、絹に水を吸収させる。最初の絹巻き取り工程は、絹繊維を引き伸ばすので、次の工程は、糸を別のボビンに紡ぎ直して緩める。これで絹は、布や他の製品を作るために使用できるようになる。シルクドレス1着には、おおよそ2,000もの繭が必要である。